

城崎温泉交流センター（愛称：さとの湯） 整備基本計画 [概要版] 案

まちが一つの宿 ～駅が玄関、通りが廊下、旅館が客室、外湯が大浴場、商店が売店～
さとの湯は城崎温泉の「玄関ホール」



城崎温泉の玄関ホール

©(一社)城崎温泉観光協会

はじめに

■これまでの経緯

城崎温泉交流センター（以下、「さとの湯」という。）は、城崎温泉の七つの外湯の一つとして、住民や観光客に親しまれてきました。

しかしながら、老朽化が著しく、引き続き安全性を確保することが難しい等の理由から、2024年3月末を以て休館しました。施設の再開には、大規模な改修が必要であることや、施設規模の関係から多大なランニングコストによる経営の圧迫等困難な課題があり、地域と共に考える必要がありました。

その課題を地域と共に考える場として、豊岡市公共施設再編計画に基づき、2021年度に公共施設の在り方を考える「地域デザイン懇談会」で策定された「豊岡市地域デザインプラン」の内容も含め、「城崎地域公共施設在り方検討会」を2023年に開催しました。その意見を含め、市として、公共施設の機能集約に関する整備方針をまとめました。

■城崎地域公共施設在り方検討会における機能集約の方向性



「城崎麦わら細工伝承館」
「城崎文芸館」

の機能を集約した
新しい「さとの湯」を整備



※城崎地域公共施設在り方検討会の詳細は市のホームページ（上記QRコードから読み取り可）にて公開しています。

1. 基本理念

■施設の基本的な考え方

上記の経緯と、豊岡市基本構想の戦略目標“ローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から尊敬され、尊重されるまち”を踏まえ、「さとの湯」の建替えリニューアルを計画します。リニューアルに際しては、施設規模・構造を適正化し、将来の課題が発生しにくい施設とするため、維持管理のしやすい運営コストに配慮した持続可能な施設とすることを目指します。

また、公共施設の集約化の観点から、既存の城崎文芸館および城崎麦わら細工伝承館の機能を「さとの湯」に統合し、城崎のまちや歴史文化、温泉の魅力を伝える拠点として整備します。加えて、本市の観光誘引をさらに高めるため、城崎温泉の魅力向上に寄与する施設を目指します。

■施設のコンセプト

「まち全体が一つの宿」という城崎温泉のコンセプトに基づき、これまで通り七つの外湯の一つと位置づけるとともに、JR 城崎温泉駅前という立地を活かし、**城崎温泉に訪れた人々を出迎え、温泉街へいざない、見送る場として「城崎温泉街の玄関ホール」**をコンセプトとした施設整備を行う。

2. 施設計画

2-1. 施設全体の構成

敷地は現さとの湯の敷地を基本とし、必要に応じて隣接する JR 西日本からの借用地・市営城崎温泉駅前駐車場敷地を活用しながら計画します。施設全体の構成としては、以下の機能を備えるものとします。

(1) 温浴機能

浴室、休憩室等を整備することとし、特色があり、魅力的な空間づくりを行います。

(2) ふれあい機能

城崎文芸館・城崎麦わら細工伝承館の機能を集約し、待合スペースとしての機能も含め、JR 城崎温泉駅前のさらなるにぎわいをもたらす場となるべく整備します。

2-2. 施設整備を行う上での各機能の考え方

- 1日の入浴者数を平均600人程度と想定した運営計画をベースとした施設整備を行います。
- サウナを整備する方向で検討します。
- 「歴史・文学の魅力」「麦わら細工」の展示は、ふれあい機能を表現する“ふれあいゾーン”を創設し、現物の展示にこだわらず、パネル等による紹介や、ゆかりのある場所の紹介などの方法も検討します。
- NPO法人「本と温泉」等の地域資源の活用場とします。
- 麦わら細工に関しては、ふれあいゾーンでの作品展示に加え、城崎麦わら細工振興協議会等と連携し、製作体験ワークショップができるスペースを確保し、また染色場を設けるなど製作に必要な設備を設けます。
- 災害時の退避場所やイベント等での活用についても検討します。
- また、JR 城崎温泉駅の待合機能が補完できるような計画とします。
- 施設管理に必要な事務所等を設置します。

2-3. 施設全体

- 施設規模は、上記の機能に必要な面積を確保することを前提に、できるだけコンパクトなものとなるように検討します。
- 敷地地盤が軟弱であることや、既存地中構造物の有効活用を図る観点から、建物重量に配慮した構造となるよう検討します。
- 計画にあたっては、維持管理費用の低減につながるよう検討します。
- 維持管理費の抑制と脱炭素のため、断熱性能の向上など省エネルギー化につとめ、再生可能エネルギーの活用も検討します。
- 多様な人々が、それぞれの楽しみ方で温泉を楽しめるような、ユニバーサルデザインの考え方をできるだけ取り入れます。
- 城崎温泉街の景観を意識した建物の外観デザインとします。

2-4. JR 西日本との連携・協議

- JR 城崎温泉駅からの来訪者動線や、待合スペース等の活用を通じて、さとの湯および城崎温泉の魅力発信が可能となるよう協議を行います。
- 敷地が城崎温泉駅の駅舎および線路に隣接することから、線路等近接工事に関する協議を行います。
- 敷地の一部がJR 西日本からの借用地であるため、借用地は引き続き借用することを前提に JR 西日本と協議します。

3. 施設運営についての考え方

施設運営にあたっては、運営の効率化・コスト削減を目指し、地域経済に資するため、以下の方針とします。

3-1. 施設運営方法

- 施設の運営管理にあたっては指定管理制度を採用します。
- 利用料金制を採用し、指定管理料は0円を基本として検討します。
- リスク分担を明確にした上で、指定管理者と協定を結びます。

3-2. 入浴料金体系

- 泉源を所有する城崎町湯島財産区等と協議・検討します。

4. 市営城崎温泉駅前駐車場の取り扱い

- 建築計画に応じ、建物用地として一部を使用することを検討します。
- 運営については「さとの湯」と一体経営とすることも検討します。

5. 整備スケジュール（予定）

年度	2024	2025	2026	2027	2028
解体工事	設計	解体			
実施設計		設計 →	設計完了		
建築工事				着工 →	工事完了
リニューアルオープン					リニューアルオープン

※関係機関との協議等により、スケジュールが変更になる可能性があります

6. 施設整備の進め方

施設整備や運営方法の検討にあたっては、泉源の所有者である城崎町湯島財産区や、地域の関係団体等と意見交換しながら推進します。

上記計画策定までの協議の内容等については、本市ホームページにて公開しております。
<対象ページ>
トップページ > 市政情報 > 地域からの情報 > 城崎地域 > 城崎温泉交流センター基本計画検討会

